

1 学校教育目標

かんがえる子 がんばる子 やさしい子 げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」 ・児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	・かんがえる子：学び方を身に付け、自分の考えを表現できる子 ・がんばる子：自分に自信をもち、より高い目標に向かって努力を続ける子 ・やさしい子：自分のよさと友達のよさに気付き、互いを認め合う子 ・げんきな子：心身の健康に気を付け、進んで運動に取り組み、安全に心がけて生活できる子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようと努力する教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童が「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○児童について

明るく素直な子供たちが育っている。行事等特別活動に意欲的に取り組む児童が多く、学校生活をよりよくしようと頑張っている。本校の基本的な生活習慣の合い言葉「かみきそあじ+1」（家庭学習習慣の定着、携行品の確認、聞き方の統一、掃除・片付けの定着、立ち止まり挨拶、時間の厳守+靴のかかと揃え）が定着しており、礼儀正しさが感じられる。

○教職員について

児童に寄り添う指導を行い、教材研究や教材作成を熱心に行う教員集団である。長く本校に在籍している教員は減り、経験年数の浅い教員が多くなった。若手もベテランも向上心があり、積極的に研修を行い、OJTが浸透している。学校全体で児童の規範意識を高めることが課題である。学級経営力を高め、児童のウェルビーイング向上に努める。

○保護者・地域について

両者とも学校教育に対し非常に協力的である。様々な場面でボランティアとして学校を支援してくれている。コミュニティ・スクールとして学校運営にも参画してもらっており、地域の熱い思いが伝わってくる。学校・保護者・地域が「チーム栗北」として、子供の健全育成に取り組むことができる。

【前年度の成果と課題】

○学力の向上

区学力調査の目標通過率は、2教科平均81.8%で達成基準を上回った。国語85.3%、算数78.3%であり、算数の基礎学力定着が課題である。つまづきを解消し基礎学力を定着させるための補充学習等の工夫が必要である。校内授業研究やOJTなど授業力向上の取組は十分に行うことができた。

○豊かな心の育成

読書マラソンの取組を今年度も継続して行う。児童への肯定的なかかわり方に努め、自己肯定感や思いやり気持ちの育成は目標を達成することができた。体験的な学習を多く取り入れ情操教育に努めていく。安心できる学校環境をつくるため学校全体で児童の規範意識を高めることが課題である。

○健康・体力の保持増進

体育授業の改善を行った。児童の日常的な運動量・動きの種類は減っているので、休み時間を活用し授業以外の運動の機会をつくった。マラソン記録会、縄跳び記録会に向けた練習期間を設定し体力向上を図った。体力テストで都平均を上回る種目が全体の半分となり、前年度よりも増えた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健康・体力の保持増進	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎基本の確実な定着		6年度の4月区調査で目標通過率 80%、2月定着確認テスト 目標通過率 80%。		4月区調査において目標通過率 82.2%で目標達成した。2月実施の定着度確認テストは 70.5%であった。		4月区調査の教科別の目標通過率は国語 84.4%、算数 79.9%であった。 学習の定着状況と具体的な取組は6（1）を参照。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	朝学習 (パワーア ップタイ ム)	全学年 国語 算数	毎週火・ 木曜日 始業前 10分	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 全児童対象。国・算週1回実施。算数はAIドリルで反復学習。国語は言語や漢字、対話の指導。 【使用教材】AIドリル	AIドリルの学習ログやワークテストを活用して、児童の達成状況を確認する。	対象単元のAIドリル習熟度を1段階向上させる（D→C、C→B）。または確認テスト 80%以上	つまずきの解消を図った。観点「知識・技能」のワークテストの平均正答率は算数 81.4%、国語 79.3%であった。目標をほぼ達成した。	AIドリルとプリント学習を併用した。計算と漢字の定着に二極化が見られ課題がある。引き続き前学年にさかのぼって定着を図る。	○

2 継続	放課後 補充教室	全学年 国語 算数	放課後 毎週月・ 金曜日	【指導者体制】 担任・管理職・専科。 【取組のねらい・目的】 つまずきがある児童対象。少 人数指導で基礎の定着。 【使用教材】AIドリル、プリン ト、読解、言語事項、漢字。	AIドリルの学 習ログやワー クテストを活用 して、児童の 達成状況を確認する。	対象児童の対象 単元のキュービ ナの習熟度を1 段階向上させる (D→C、C→ B)。または確認 テスト80%以上	つまずきがある児童 を対象に、主に漢 字・計算について定 着を図った。3、4 年生全員対象の九九 検定を実施し定着を 図った。	問題を繰り返し解い たことでキュービ ナの習熟度はB判定以上 となった。単元テス トではまだ未定着な ところがあり定着が 課題である。	△
3 継続	サマース クール	全学年 各学年約 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 間 各日50 分	【指導者体制】 担任・管理職・専科 【取組のねらい・目的】 つまずきがある児童対象。 個別指導でつまずき解消。 【使用教材】AIドリル	AIドリルの学 習ログやワー クテストを活用 して、児童の 達成状況を確認する。	対象児童の対象 単元のキュービ ナの習熟度を1 段階向上させる。 または確認テス ト80%以上	AIドリルで復習をし た。高学年は算数に 特化し正答率2～4 割の児童を学年で十 数名ずつ10日間指 導した。	算数事後テストの平 均点が5年生18ポイ ント、6年生が27.7 ポイント上昇し、指 導の成果が出た。定 着が課題である。	○
4 継続	家庭学習 強化	全学年 国語 算数 その他	通年実 施 年4回の 強化週 間設定 (6,9,11, 2月)	【取組のねらい・目的】 毎日自主学習を含め10分 ×学年の時間家庭学習を行 う。家庭学習強化週間を4回 実施し、習慣化を図る。 【使用教材】AIドリル、漢字ド リル、プリント等	家庭学習状況 調査実施。 6,9,11,2月に1 週間調査。 5,10,1月に1 日調査で状況 確認する。	・1日の学習が10 分×学年の時間 達成90%以上 ・1週間の合計目 標時間を達成 90%以上	3年生以上の算数は AIドリルを使用し た。家庭学習強化週 間中の達成率90%、1 週間の合計目標時間 の達成率90%で目標 を達成した。	1週間の家庭学習予 定表を配布したこと で児童が計画的に学 習できた。通常日の 達成率80%、土日は 66%と相対的に低い のが課題である。	○
5 継続	校内研究 の充実	全教員	年4回の 研究授 業 及び日 常活動	【取組のねらい・目的】 伝え合う、話す力の育成を図 り、日常的に対話活動を取り 入れる。低・中・高・専科で4 つの研究授業・協議を行う。 該当学年以外も授業公開し 指導力向上を図る。	6、1月、児 童へのアンケ ートにより達 成状況を確認 する。	「グループ活動 で積極的に発言 したり、意見を 考えたりでき る」児童が80% 以上。	4回の研究授業と3 回の事前授業を実施 した。2月のアンケート 「発言」項目で低学 年86.7% (9月比+ 7.5)、高学年80.6% (9月比+6.1)。	研究・研修を実施し 育成に取り組んだ結 果、児童の話し合いス キル・意欲の向上、教 師の授業力向上が図 れた。	○
6 継続	小中連携 による授 業力の向 上	全教員 全教科	年7回の 連 携 活 動 及 び 日 常活動	共通のテーマをもとに授業 研究し、公開・協議すること で授業力向上を図り、学力 向上につなげる。小学校研究 授業3回、中学校研究授 業1回、合同研修・指導案検 討等3回実施。	6、1月、児 童へのアンケ ートにより達 成状況を確認 する。	「めあてを理解 し見通しをもっ て学習した」、 「振り返りで学 習に興味関心を さらにもった」 児童80%以上。	連携小中学校と授業 改善に取り組んだ。 2月のアンケート「めあ て・見通し」項目で 94.4% (9月比+ 8.4)、「振り返り」項 目で82.1% (9 月比+5.7)。	教科分科会ごとに研 究・協議を行い、連 携校で授業改善に取 り組んだ結果、児童 が主体的に学習に取 り組む姿が増えた。	○

7 継続	ICTの活用	全教員 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 ・タブレットを活用して児童のICTスキルと情報活用能力を育成。 ・AIドリルを活用した基礎基本の定着。 ・ICTを活用した分かりやすい授業を実施。	授業観察 作品 スキル確認 AIドリル使用 状況	・3年生以上で文字入力、ネット検索、高学年で資料作成。 ・児童の毎週AIドリル活用100%。 教員のICT活用授業100%。	目標のスキルが身に着いた。3年生以上のAIドリル活用率は週82%、毎日55%、月解答数437問で区が目安及び平均値を上回った。全教員が授業に活用できた。	授業のほか家庭学習でもAIドリルを利用し、利用率が増加したが、学力向上につなげる指導が課題である。情報モラル指導が課題である。	○
---------	--------	------------	----	---	--------------------------------------	--	--	---	---

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分のよさを自覚し、自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。		区学力調査の質問項目「自分には良いところがある」で80%以上。 校内調査で「自他を大切にしている」90%以上。	児童同士互いのよさに目を向ける活動に学校全体で取り組んだ。 「自分には良いところがある」で4月区調査時は84.6%、12月校内調査時は85.0%だった。 「自他を大切にしている」で5月95.5%、12月97.2%だった。	不登校の予防的支援として児童の教室以外の居場所となるスモールステップルームを設置するなどし、よりよく生活できる環境づくりに取り組んだ。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな心を育む読書活動の充実	・学校図書館貸し出し冊数1人当たり月5冊(年間50冊)。 ・読書マラソンカードで50冊または10,000ページを達成した児童(のべ人数)50%(1月末)。	・年2回春と秋に読書旬間を実施する。 ・図書ボランティアによる読み聞かせを年3回程度実施する。 ・図書館との連携を図る。 ・通年で読書マラソンカードに取り組む。	読書推進のため週1回の朝読書、読書旬間のほかボランティアによる読み聞かせ会を年20回(各クラス3～4回)実施した。学校図書館の1人あたりの月平均貸出冊数は約5.6冊(年間約56冊)で目標を達成した。「読書マラソン」は2月末で55%が目標を達成した。	各取組とも読書量の多い児童への効果が高かった。全ての児童の読書への関心を高めるため、特に読書を好まない児童の関心を高め、読書量を増やすことが課題である。	○

自己肯定感の育成 思いやりの心の育成	「かみきそあじ」調査(5, 10, 1 月)で自己肯定感に関するアンケート項目で 80 %。自 他 の 尊 重 で 90%。	・全教職員でほめ育ての実践。 ・WEBQU アンケートの分析と校内体制で支援を行う。 ・体験的学習の充実。 ・ボランティア活動の実践。	いじめ防止教室、いのちの誕生授業、認知症サポーター小学生養成講座、演劇鑑賞、パラ競技体験、落語、原爆先生など外部講師を活用した多くの体験的学習を行い心の教育を推進した。自己肯定感のアンケート項で 85%、自他の尊重 97.2%とどちらも達成目標を上回った。	生活の基本となる学級において、WEBQU 結果等を活用して支援の必要な児童への予防的支援を行った。継続すると同時に、計画的に児童のソーシャルスキルを育てていく。	○
命をつなぐ千住ネギの栽培活動	4年生が活動の意義を理解し年間を通して、千住ネギを栽培する。種を次年度 4 年生に引き継ぐ。	・学校の特色、SDG's の取組として千住ネギ栽培を引き継ぐ意義を理解させる。 ・花壇ボランティアや農業委員と連携して栽培を行う。	今年度も 4 年生が千住ネギを栽培・収穫し、次年度に種を引き継いだ。学校の SDGs の取組に位置づけ、学校全体で食育や伝統の継承について考える機会とした。	伝統の大切さを学ばせることができた。大人の力を借りる場面が多くなるのでより児童主体の活動にしたい。	○

重点的な取組事項－ 3		健康・体力の保持増進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の定着と体力の向上		「かみきそあじ」調査3回、生活振り返り週間の調査・結果周知を2回行う。 6月実施の体力テストで8種目を学年・男女別に分けた96種目中、都平均を半分の種目で上回る。	基本的な生活習慣の定着に向け年間を通して指導を行った。 体力テストで総得点平均が都平均+2.72だった。96種目中46種目が都平均を超えた(前年48、前々年41)。	調査結果を生かして基本的な生活習慣の定着を図る。 体力向上に取り組んだ。日常的な運動量確保が課題である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上 (特に投力)	6月の体力テストの都平均で前年度を上回る。8種目を学年・男女別にした96種目中、半分の48種目で都平均を上回る。	・投力を高める運動を毎時間の学習過程に組み込む。 ・業間体育(持久走、短なわ)の実施。 ・運動の日常化。	体力調査で総得点平均は都平均を2.72上回った。96種目中46種目(男子18、女子28)が都の平均を超えた。シャトルラン・反復横跳びは良好だったがボール投げは都平均-8.98だった。後期に2,3年生で投げ方教室を開催した。	旬間を設けて持久走、長なわ、短なわに取り組み、記録会を実施し意欲と体力向上を図った。体力向上推進計画に基づき体育の授業改善を図る。	○

基本的生活習慣の定着(特に挨拶・整理整頓)	小中連携校で共通実践「かみきそあじ」(家庭学習・身に付けるもの・聞き方・掃除・挨拶・時間を守る) 調査で 90%。	・年3回の生活振り返り実施。 ・毎日の挨拶運動。 ・児童朝会での啓発。 ・調査結果の提示。	「かみきそあじ」+1の取組の結果、総合で85%の児童に定着した。児童会による挨拶運動を実施し、期間中はできていることが多かった。	「身に着けるもの」が定着していないので、今後も継続して指導し定着を図る。挨拶も強化したい。	△
保健衛生指導の推進	・虫歯罹患率 15%未満。 ・虫歯未治療率 30%以下(年度末)。	・1年生のハロー6ちゃん教室や3年生の染め出し等歯みがき指導の実施。 ・継続した虫歯治療勧告。 ・年間を通した手洗いの励行。	・虫歯罹患率 11.6%、虫歯未治療率 29%で基準を達成した。ハロー6ちゃん教室や染め出し等歯磨き指導を行った。保健委員会児童が動画を作成し、全校生に周知した。	後期から学年の発達段階に合わせて給食後の歯磨きを開始した。治療勧告や保健だよりで周知を行った。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学習の定着状況と具体的な取組について

【課題】・全学年の単元ワークテスト平均(12月末)の観点別定着度は、国語 81.1% (「知識・技能」79.3%、「思考・判断・表現」83.5%)、算数 76.9% (「知識・技能」81.4%、「思考・判断・表現」70.8%) で前年度より 2.7% 向上したが、漢字・計算等未定着な単元があった。

- ・算数のかけ算、わり算など計算領域の習熟度が低い。放課後補充教室やサマースクールで個別・少人数指導を行い一時的にできるようになっても、確実な定着には至らないところがある。
- ・授業や家庭学習で AI ドリルの利用が増えたが、基礎基本の定着につながるように効果的な利用方法を指導する必要がある。

【対策】・教員が授業改善推進プランに基づく授業改善に取り組む。学習のめあてや振り返りを児童に考えさせ、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。また、ペア・グループ学習によって学びを深める工夫をする。

- ・算数習熟度別指導を充実させ、少人数指導で「できた・分かった」という自信をつけさせる。
- ・AI ドリルとプリントを併用し、児童が自分に合った学び方で習得できるようにする。つまりは朝学習、放課後学習で個別に指導にあたる。
- ・中学年で九九検定を行い、全員が確実に九九を覚え授業で活用できるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度も保護者、地域の皆様のご理解、ご協力のもと学校運営を行うことができました。皆さまに感謝申し上げます。また、学校評価でいただいたご意見を生かし、問題点は改善に努めてまいります。

次年度も本校の特色でもあるゲストティーチャーを招いての出前授業の実践や縦割り班活動など様々な体験活動の機会をつくり、子供たちの学力、体力、そして心の教育の充実を図ります。今後も「全ては子供たちのために」を合い言葉に教職員一同力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

(3) その他(学校教育活動全般について)

今、学校はこれまでのように標準授業時数を大幅に上回る時数で児童と教職員に負担となるような教育課程を点検・見直すことが求められています。本校でも標準授業時数に加え、十分な教科指導に必要で、かつ感染症や災害時の時数不足にも対応できる時数を余剰時数として確保しています。余剰時数を多すぎない適正な時数にするためには、教育活動の中で慣例的になっている部分を見直し精選する必要があります。とりわけ学校行事については準備・運営に多くの時間をかけているため、簡素化を進めています。しかし、ただ簡素化するだけでなく、子供たちによりよい教育を行うことを原点とし、保護者、地域の皆様の期待に応える視点をもって行事と授業の関連や統合を図り、工夫することで内容を充実させるよう取り組みます。

